

## バーバ・ムクターナンダの第1回世界ツアー50周年記念日 スワミ・イーシュワラーナンダによる紹介

2020年8月21日は、シッダ・ヨーガの道における歴史的なイベント——バーバ・ムクターナンダの第1回世界ツアー50周年記念日——に当たります。それは、3回の世界ツアーの第1回目、そのツアーで、バーバはシッダ・ヨーガの教えと修行を世界中の探究者にもたらし、シャクティパートの伝授を通して何千もの人々を彼ら自身の神性に目覚めさせました。第1回世界ツアーがどのように始まり展開したのか、それは神聖な恩恵、バーバの愛、たくさんの寛大な人々の善意に満ちた物語です。

1970年5月12日の朝、グルデーヴ・シッダ・ピートゥで、バーバはアーシュラムにいたシッダ・ヨーギのグループに、早朝に9年前にマハーサーマディに入った彼のグル、バガヴァーン・ニッテャーナンダのダルシヤンを受けたと嬉しそうに伝えました。バガヴァーン・ニッテャーナンダが陶醉してアーシュラムの中庭グル・チョークで踊っているビジョンを目にし、そして海外を旅してシッダ・ヨーガの教えを広めるよう内なる命令をバデ・バーバから受けた、とバーバは話しました。

そうして、3カ月後の1970年8月21日、バーバは、ムンバイ国際空港から5人の信奉者のグループと共に3カ月の世界ツアーに乗り出し、これがバーバの第1回世界ツアーとして知られるようになりました。

それから101日間、バーバは旅し、90の公の講話を西洋の各地——イタリア、スイス、英国、フランス、米国、オーストラリア、シンガポール——で行いました。彼と共に旅した人たちは、バーバは目が覚めている間ずっと、サツァングと質疑応答を行い、講話をし、人々にチャンティ

ングと瞑想を教え、信奉者たちと会い、家々を訪問し、2日から3日間の精神的リトリートを行った、と言いました。これらすべての活動を通して、バーバは絶えず恩恵を受け、ダルシャンを与え、人々が内側に向かい、彼ら自身の内なる大いなる自己の神性を知るよう導きました。

この西洋への旅に先立ち、バーバはインド中を広く旅し、何千もの人々にシッダ・ヨーガの教えを伝え、彼の恩恵を受けました。1960年代の中後期に西洋からの探究者たちが真のグルを探してインドに行き始め、多くの人々がバーバの偉大さとシャクティパートを与える力を耳にし、彼のアーシュラムを見いだしました。

これらの探究者たちは、グルデーヴ・シッダ・ピートゥに滞在中、アーシュラムの日課に完全に浸り、バーバの恩恵を通して精神的目覚めを受け取り、深い変容を体験しました。アーシュラムを離れる時、多くの人々がバーバを自国へ招きました。自分たちの家族や友人に真の精神の師を紹介し、バーバから受け取ったものを彼らと共有したいと願ったからです。ですから、バーバが西洋へ旅するという知らせが広まった時、その同じ信奉者たちの多くが、彼らの国へのバーバの訪問を手助けすることを申し出ました。

第1回世界ツアーの印象的な特質の一つは、それが有機的で自然発生的であったことでした。どんな状況が起こっても、バーバはそれを教えと恩恵を与える機会に変えました。バーバがローマに滞在していた時にそこにいた一人が、ツアーの最初の滞在地の雰囲気を描写しています。

それは信じられないくらい親密な雰囲気でした。私たちは家族のように感じ、バーバに教会や大きな建物を案内して回りました。サツァングは自然発生的でした——バーバはただ座って、話し、チャンティングし、それから人々に会いました。私たちには毎日何が起きるか全く分かりませんでした。誰かがバーバに会い、そして彼をどこかに招きました。すると彼はそこに行くのです。<sup>1</sup>

バーバはどこに行っても、直接に人々と会い、共にいる時間を取りました。ダルシャンを与えている時、それがサツァングの終わりであれ、より私的な場などであれ、バーバは愛をもって一人一人を歓迎し、彼らと会うことの喜びを表現しました。そしてバーバは皆に、意識を内側に向け、彼ら自身の内なる大いなる自己の偉大さを体験するよう促しました。

たった一度バーバに会っただけでも、人々は自分自身に対する新しい気づきや瞑想に対する新しい興味を持ち帰り、バーバと共にいたことから得た、驚くような体験と洞察について友人たちに話しました。このように人から人へ、心から心へ、口伝えで、人々はツアーの間を通してバーバとのサツァングに呼び寄せられたのです。

多くの滞在地で、バーバは大学や教会、その他の教育機関でサツァングを行いました。これらのサツァングには、神父、牧師、ラビ、さまざまなヨーガや精神的コミュニティーのリーダー、東洋哲学の教授やあらゆる年代の学生などが出席しました。彼らは皆、悟った師から直接にヨーガの神秘について聞くことを欲しました。

それぞれのサツァングで、バーバの計り知れないシャクティはホールを満たし、素晴らしく心地良い雰囲気を作り出し、人々を彼ら自身の心に結び付けました。例えばボストンでは、バーバは9大学から集まった何千もの教授や学生から成る聴衆に話し掛けました。バーバは彼らをチャンティングに導き、講義を行い、全員を瞑想へと導きました。数時間に及ぶこのイベントの終了予定時間になっても、人々は立ち去ろうとはしませんでした。そのサツァングにいた人の中には、全員が椅子に座ったまま内側から湧き上がる愛とエネルギーに浸っていたと、後に語る人もいました。バーバは、思いやり深くホールに居続け、集まった人々をもう一つのチャンティングへと導きました。それでも、彼らは立ち去ることを望みませんでした。とうとう、バーバはバジャンを歌い始めました——そしてそのようにして、サツァングは素晴らしい愛の海の中で終わったのです。

バーバが西洋にもたらし、すべての講話の中で授けた最も中心的な教えとは、次のようなものです。

あなたの大いなる自己をたたえなさい。

あなたの大いなる自己を崇拝しなさい。

あなたの大いなる自己について瞑想しなさい。

神は、あなたの中にあなたとして住んでいる。

バーバはさらに、この教えの直接的な体験を伝授する類いまれな能力を持っていました。マンハッタンでのサツァングで、ある男性は、バーバが光り輝く青い炎になり、そこから光線が放たれ、参加しているすべての人の心に入って行くビジョンを見ました。バーバの光がこの男性の心に入った時、彼は自分の意識が内側深くに引き込まれ、その場所で至高の喜びの体験に溶けていくのを感じました。<sup>2</sup>この男性は、バーバとのサツァングにやって来た多くの人々と同様に、シャクティパートの伝授——グルの恩恵によるクンダリニー・シャクティの目覚め——を体験したのです。

バーバが西洋に旅する前には、そこではシャクティパートの伝授について聞いたことのある人はほとんどいませんでした。クンダリニーの目覚めの体系的知識は、インドで遠い昔から秘密にされ、厳しいタパシャを行ったほんのわずかなヨーギたちのみが得ることができたものでした。1970年11月29日にバーバがインドに戻る頃には、シャクティパートとクンダリニーの目覚めは、彼の恩恵によって、西洋に住む多数の探究者たちによって体験されました。これが、バーバの第1回世界ツアーの偉業の一つです。

バーバがグルデーヴ・シッダ・ピートゥに戻ると、彼の恩恵とダルシャンを受け取り、彼とのサツァングに参加した多くの西洋人たちがやって来るようになりました。彼らは、シッダ・ヨーガの

教えの体験を深めるためにグルデーヴ・シッダ・ピートゥを訪れたのです。多くの人々が、自宅や小さなグループでシッダ・ヨーガの瞑想を実践し始めました。やがて、彼らの多くがバーバの祝福を受けてシッダ・ヨーガ瞑想センターを開設し始め、そこで人々は共にサツァングに参加し、新しい探究者たちはシッダ・ヨーガの道について学ぶことができるようになりました。

2020年の今、振り返ってみると、シッダ・ヨーガの道が世界規模の精神の道——世界中の探究者たちが求めることのできる道——として確立する上で、この最初のツアーの重要性が理解できます。ですから、バーバの第1回世界ツアーの50周年記念日に寄せて、私たちは1970年のあの101日間の恩恵に満ちた日々から流れ続けている祝福を祝うのです。



© 2020 SYDA Foundation®. 著作権所有。

---

<sup>1</sup> Swami Durgananda, "The Unfolding Destiny of a Great Being," *Darshan* magazine, October 1988, no. 18 – 19, *In the Company of the Saints*, p.46.

<sup>2</sup> Swami Durgananda, "To See the World Full of Saints," from Douglas Renfrew Brooks, et al, *Meditation Revolution: A History and Theology of the Siddha Yoga Lineage* (South Fallsburg, NY: Agama Press, 1997) p. 78.